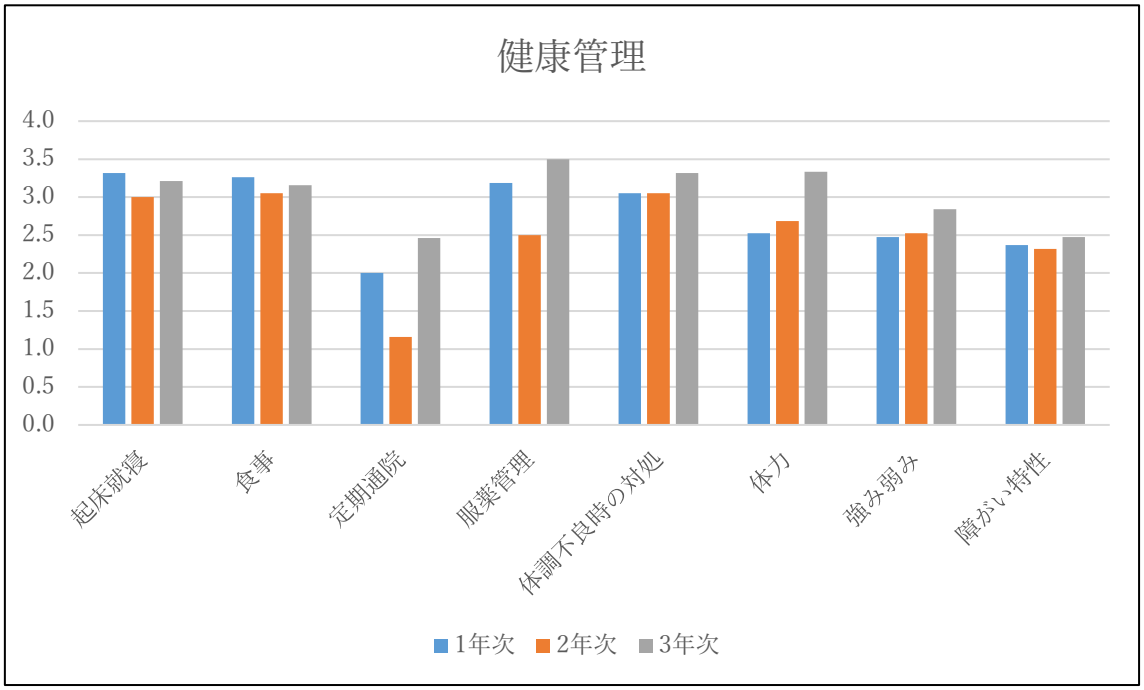
（２）令和３年度入学生の３年間の得点の推移の比較

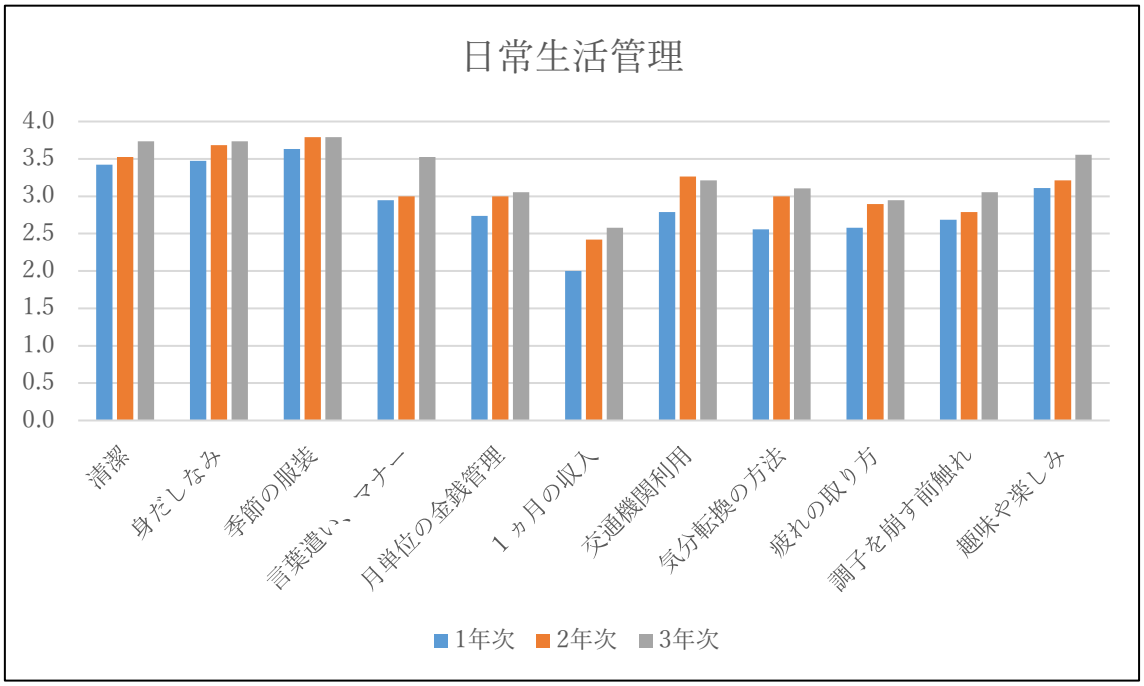
【健康管理】



３年間通じての平均点が３点以上の項目：「起床就寝」、「食事」、「体調不良時の対処」

３年間通じての平均点が１～２点台の項目：「定期通院」、「強み弱み」、「障がい特性」

【日常生活管理】

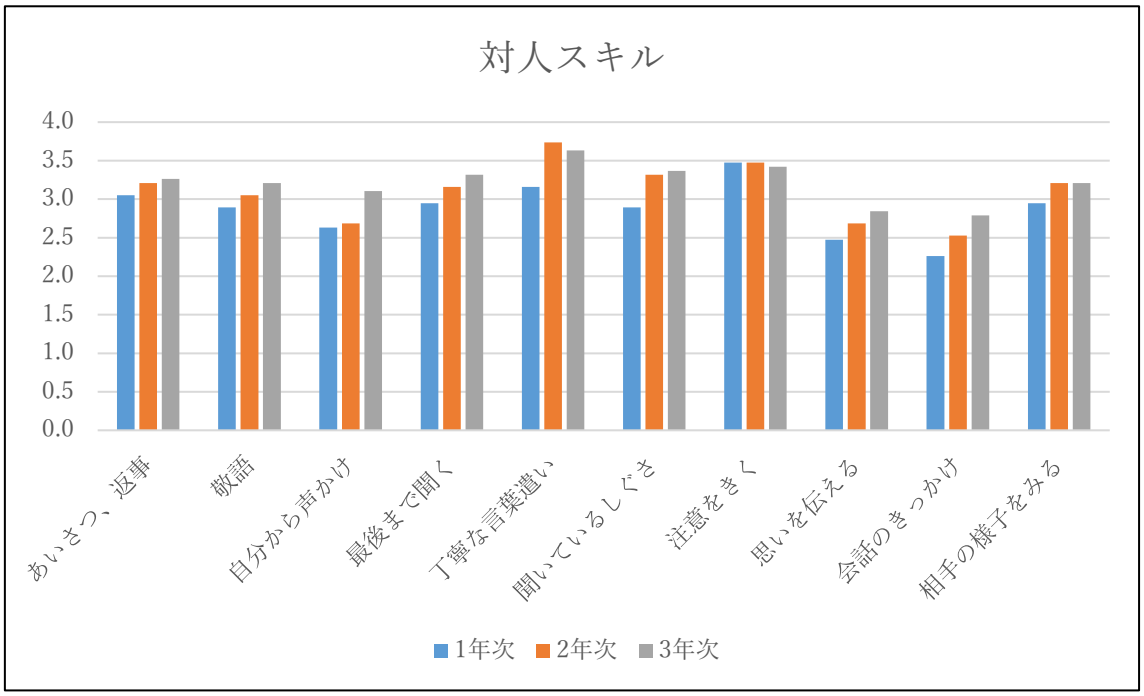


３年間通じての平均点が３点以上の項目

「清潔」、「身だしなみ」、「季節の服装」、「趣味や楽しみ」

３年間通じての平均点が１～２点台の項目：「１か月の収入」、「疲れの取り方」

【対人スキル】

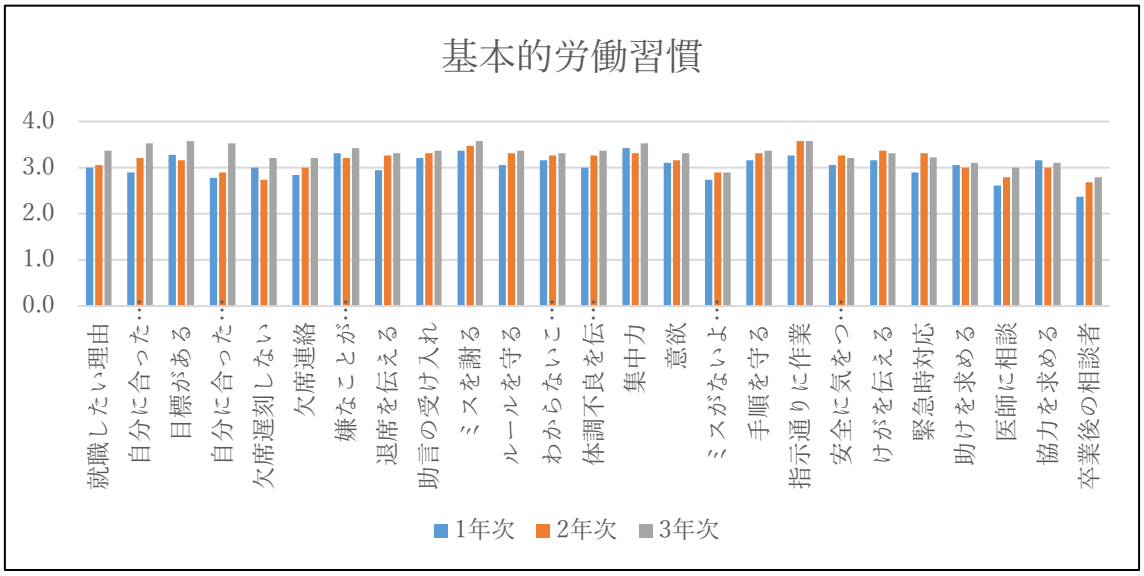


３年間通じての平均点が３点以上の項目

「あいさつ、返事」、「丁寧な言葉遣い」、「注意をきく」

３年間通じての平均点が１～２点台の項目：「思いを伝える」、「会話のきっかけ」

【基本的労働習慣】

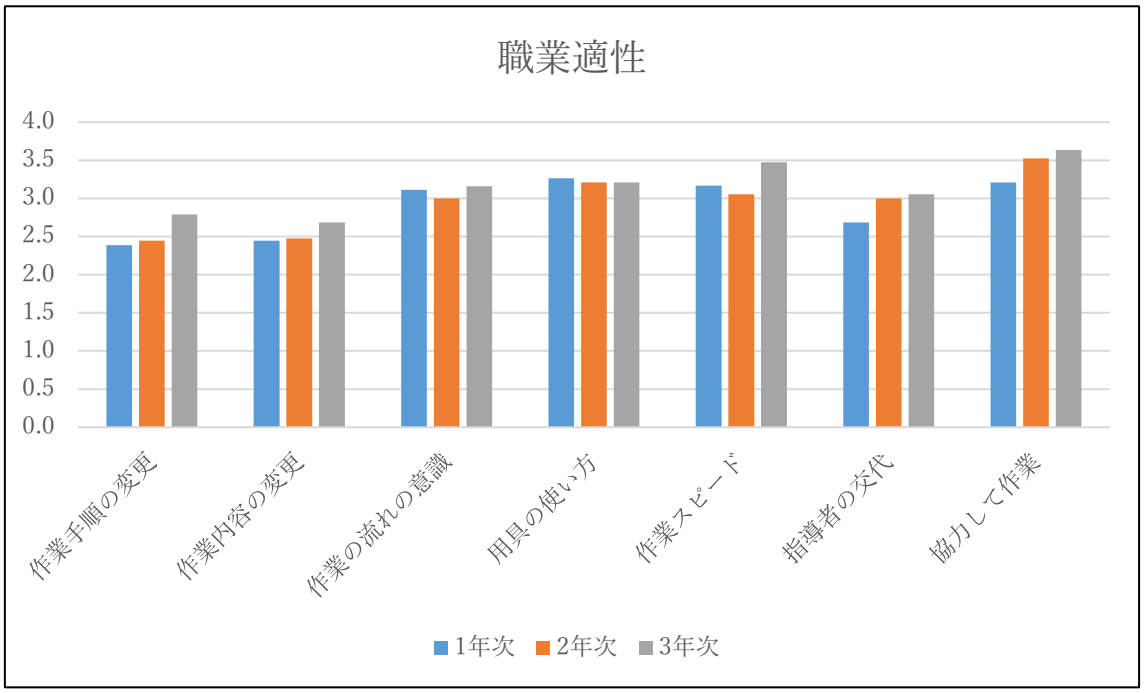


３年間通じての平均点が３点以上の項目

「就職したい理由」、「目標がある」、「嫌なことがあっても登校」、「助言の受け入れ」、「ミスを謝る」、「ルールを守る」、「わからないことをきく」、「体調不良を伝える」、「集中力」、「意欲」、「手順を守る」、「指示通りに作業」、「安全に気をつける」、「けがを伝える」、「助けを求める」、「協力を求める」

３年間通じての平均点が１～２点台の項目：「ミスがないように確認」、「卒業後の相談」

【職業適性】



３年間通じての平均点が３点以上の項目

「作業の流れの意識」、「用具の使い方」、「作業スピード」、「協力して作業」

３年間の平均点が１～２点台の項目：「作業手順の変更」、「作業内容の変更」

【考察】

５領域のほとんどの項目で、学年が進行するごとに平均点が上がっている。特に、生徒が、日々の生活の中で繰り返し経験のできる項目については、着実に得点が伸びており、実際に経験することで定着していくことがわかる。これは、直接指導が難しい「起床就寝」や「食事」、「体調不良時の対処」などについても、生徒が日々、取り組むことで同様のことが言える。

各領域を見ると、「基本的労働習慣」、「職業適性」の各項目では、２年次までは２点台にとどまっていたものが大きく得点を伸ばしているものが多い。これは、多くの生徒が、これまでの学習の積み上げに加え、３年生となり就労に向けたより実践的な取り組みを経験し、内定を手にしたことで、自分自身に自信を持ち、「ふつうにできる」と評価した結果ではないかと予想する。

上記のことから、本校の教育を受けることは、社会人としての基礎的な能力を身につけることにつながっていると考える。

しかし、その一方で、３年間の教育を通しても、得点の伸びにくい項目にも着目しておきたい。その項目は、【健康管理】「定期通院」、「強み弱み」、「障がい特性」、【日常生活管理】「１か月の収入」、「疲れの取り方」、【対人スキル】「思いを伝える」、「会話のきっかけ」、【基本的労働習慣】「ミスがないよう確認」、「卒業後の相談者」、【職業適性】「作業手順の変更」、「作業内容の変更」となる。中でも、「定期通院」、「１か月の収入」、「卒業後の相談者」については、現時点では未経験だったり、経験が少なかったりすることで、生徒が自己評価できず、得点が低くなっていると思われる。残りの項目の「強

み弱み」、「障がい特性」、「思いを伝える」、「会話のきっかけ」については、今年度、昨年度の３学年比較の検証結果と同じ傾向が見られている。その他の項目である「ミスがないよう確認」、「作業手順の変更」、「作業内容の変更」については、今年度の３学年の弱点や課題であり、卒業後の４月からの就労に向けて、移行支援会議で各企業へ生徒の実態を引き継ぐ等の手立てが求められる。

自分自身の「強みや弱み」、「障がい特性」を理解することは、起こりうる対人ストレス等による病気の予防や必要とする支援や配慮を明確にすることにつながる。そして、そうした「思いを伝える」ことができると、周囲の理解や協力が得られ、就労をより長く継続できると考える。また、職場における対人関係は非常に重要なものであり、「会話のきっかけ」を作る等、受け身の姿勢ではなく、主体性を持って行動することも求められる。知的障がいや発達障がいがあることでの難しさはあるが、環境を整えやすい学校生活の中だからこそ、上記の課題を改善・克服するための取り組みについて考える必要がある。